研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-133	A-162	20-052	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol- and drug-related consequences across latent classes of substance use among American Indian adolescents

アメリカインディアンの青年における潜在的な薬物使用とアルコールおよび薬物関連有害事象の関連

執筆者

Schick MR, Goldstein SC, Nalven T, Spillane NS.

掲載誌

Addict Behav. 2021 Feb;113:106682. doi: 10.1016/j.addbeh.2020.106682.

キーワード	PMID
アメリカインディアン　アルコール　薬物　多種類　有害事象	33038678

要　旨

目的：アメリカインディアン（AI）の青少年は他の人種・民族に比べて薬物使用による健康格差が大きく、公衆衛生上の重大な問題である。Stanley と Swaim は 2018 年、潜在クラス分析により、AI 青年の多種薬物使用が有害事象の増加と関連することを報告した。本研究は、同データの二次分析により、潜在クラスとアルコール・薬物関連有害事象との関連について調べた。

方法：2009～2013 年実施の、AI 自治区の学校に在学中の青年を対象としたアルコール・薬物使用調査のデータから AI 青年を抽出した。薬物関連有害事象を含む調査に回答した 7～12 学年の AI 青年 3498 人（女性 47.8%, 平均年齢 14.8 歳)を研究対象とした。アルコールは 13 項目・薬物は 12 項目の有害事象について聞き取り、それぞれ当てはまる項目数でスコア化した。

結果：潜在クラス分析により、①過去 1 か月の薬物使用なし②マリファナとタバコのみ使用③アルコール、マリファナ、タバコのみ使用④多種類の薬物使用の 4 つのクラスを特定した。クラス間の比較では、使用薬物が多種のクラスの青年ほど、概ねアルコールや薬物に関連する有害事象が多かった。例外的に②のクラスは③のクラスに比べて、薬物関連有害事象が多かった。

結論：使用薬物の種類が多い AI 青年はアルコール・薬物関連有害事象が多かった。複数の薬物を使用する AI 青年に対して、有害事象リスク増加を踏まえた心理教育を行うべきである。AI 青年の薬物による健康格差を是正するため、こうしたリスクを軽減するための介入が必要である。